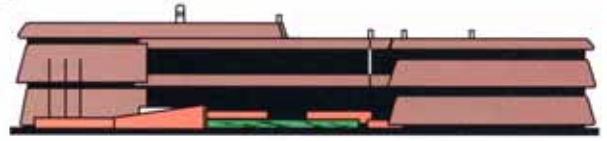


苫小牧市 博物館だより

2002.8

No. 51



ピエール・オーギュスト・ルノワール「少女像」1877年作

苫小牧市民文化芸術振興条例制定記念事業／トヨタ自動車(株)北海道創業10周年記念事業

印象派とその歩み展

～感じたままに 瞬間を描く～

2002年8月24日(土)～9月16日(月)

苫小牧市博物館・特別展示室（観覧料無料）

開館時間：午前9時30分～午後5時／休館日：9月16日を除く毎週月曜日

主催：トヨタ自動車北海道株式会社／協賛：トヨタ自動車株式会社

後援：苫小牧市・苫小牧市教育委員会

～ 感じたままに 瞬間を描く～
印象派とその歩み展

Renoir, Monet, Sisley etc.

8月24日から苫小牧市民文化芸術振興条例制定・トヨタ自動車北海道株式会社創業10周年を記念して、トヨタ自動車株式会社が所蔵する印象派の絵画28点を一堂に会し、「印象派とその歩み展～感じたままに瞬間を描く～」が特別展示室で開催されています。



カミーユ・ピサロ「エラニーの眺め」1884年作

ルノワールやモネ、シスレーら印象派の画家たちによって、近代絵画は大きな変革をとげました。神話や宗教から離れ、自然をテーマに制作するようになったコロラの後を継いで、彼らはより大胆に太陽の光を受けとめ、世界を画家個人の視覚的な印象としてとらえようとしたのです。

そして、それぞれ自由に豊かな色彩感覚をもとに自然の美しさを生きる喜びと共に描きました。また、その後のボナールやドニラに更なる多様な展開をみることができるようでしょう。

本展では、そうした印象派とその周辺の画家たちに加え、フランスに渡り印象派の影響を受けた黒田清輝をはじめ岡田三郎助・藤島武二ら日本の画家たちの作品もあわせて展覧いたします。



クロード・モネ「睡蓮」1897-1898年作

～ 展示作品 ～

ジャン・バティスト・カミーユ・コロー
「木立の中の家」

シャルル・フランソワ・ドービニー
「河畔」

ウジェーヌ・ブーダン
「ドーヴィルの水辺」

カミーユ・ピサロ
「エラニーの牧場」

ピエール・オーギュスト・ルノワール
「読書」

アルフレッド・シスレー
「ベノー・ナドンの風景」

ギュスターブ・ロワソー
「アダム島の川岸」

「村の協会の塔」

フランシス・ピカビア
「モレスルロアン池」

ピエール・ボナール
「馬のいる牧場」

モーリス・ドニ

「サンジオルジュ・マジョール前のオレンジ売り」



藤島武二「帽子の婦人像」1908 年作



アルフレッド・シスレー「春の朝・ロワンの運河」1897 年作

黒田清輝

「庭の雪」

藤島武二

「イタリア河畔風景」

岡田三郎助

「花の咲く風景」

和田英作

「夏雲」

山下新太郎

「奈良公園新緑」

中村 彝

「静物」

安井曾太郎

「白桃」

梅原龍三郎

「薔薇」・「ソレント風景」

小磯良平

「踊り子」・「静物」

伊藤清永

「ばら」

博物館トピックス

◆博物館大学講座◆

大学講座は、例年と同様に定員を上回る応募があり、厳正な抽選を行い、5月18日（土）に入学式を迎えました。

受講生の中には4回以上卒業された方が27名おり、博士（8回卒業）や修士（6回卒業）を目指す方が各々8名と、尽きることのない学習意欲に驚かされます。

当日は、講堂一杯に詰めかけた受講生を前に、総長（福島教育長）挨拶の後、新職員紹介、オリエンテーション、施設見学が行われました。施設見学では展示室のほかに、普段目にする機会のない地下の収蔵庫では、多くの資料を興味深そうに見学していました。



◆観察会「森と遊ぼう」◆

7月6日（土）にはまちを緑にする会との共催で、国営滝野すずらん丘陵公園を会場に観察会「森と遊ぼう」が実施されました。

雨が心配されましたが、当日は雨も上がり、40名の参加者は、公園内にある樹木とアシリバツの滝を観察しました。

樹木観察会では、クイズ形式で樹木の名前を調べるコースを回り、それぞれの葉や幹を観察し、名前を調べて行きました。さらに詳しい特徴について説明を受け、理解を深めていました。

アシリバツの滝では、滝がどのようにして出来たのか説明を受け、身の回りにある自然のすばらしさを実感されたようです。

◆芸術の森見学会◆

8月8日（木）には博物館友の会との共催で札幌芸術の森見学会が実施されました。

38名の参加者があり、芸術の森美術館で開催中の「イタリア・ルネサンス三大巨匠素描展」と野外美術館を見学しました。

「三大巨匠素描展」では、学芸員による解説を聞き、それぞれ作品を観賞されていました。

野外美術館では、天候不順のため中止の可能性もありましたが、なんとか持ち直し、「健脚組」と「ゆったり組」の2班に分かれ、解説員による詳しい説明を聞きながら、1点1点彫刻を見学して回りました。参加者はそれぞれ満足された様子で、帰りのバスに乗り込みました。

◆親子土器作り教室◆

夏休み期間中の7月28日（日）に、縄文同好会の協力を得て、親子土器作り教室が開催されました。

16家族40名の参加があり、2会場に分かれて、思い思いの土器作りに熱中されていました。

予定時間内にできあがった方が多い中、思うようにできなくて、予定時間をオーバーされた方など、土器作りの楽しさや難しさを実感されたようです。子供たちは夏休みの自由研究の課題として、持ち帰ったものもありますが、この後、野焼きを行い、11月1日（金）から開催される「縄文展」に展示する予定です。





「丹治沼の魚類調査」

6月22日(土)、天気は曇り。博物館友の会の平成14年度の記念すべき第1回目の行事である「丹治沼魚類調査」が行われた。今回の行事は、沼の所有者の丹治一三氏とウトナイ湖養殖漁業会の協力を得て実施された。

丹治沼は林業を営む丹治氏の私有地内にあり、面積は約22ha、水深約2mで、「白鳥湖」とも呼ばれ、以前には湖畔に温泉施設もあった。

個人の所有地ということもあり、これまでに本格的な魚類調査が行われたことが無く、おおよその種類については予測されていたが、丹治氏や初めて丹治沼で漁をする漁業会の人たちも種類や生息数などはっきりと分かっていなかった。早速、漁業会の人々が前日に仕掛けた網を引き上げると、かなりの数の魚介類がかかっていた。

まず、目を引いたのは、フナ類の「ゲンゴロウブナ」やウグイ類の「ウグイ」「マルタウグイ」、モツゴ類の「モツゴ」などコイ科で、この他に、

「ナマズ」や体長が1mを超えるという「ソウギョ」(この日は体長63cmを捕獲)、「エゾトミヨ」、さらに甲殻類の「スジエビ」や「オオタニシ」・「カワニナ」などの貝類も網にかかっていた。かつてはコイやウナギなども生息していたというが、周辺にゴルフ場が造成されてから、さらに繁殖力の強いナマズが増えてからは、姿が見えなくなったといえます。この日は、魚類にも詳しいウトナイ湖サンクチュアリの葉山氏が種類について説明をしてくれました。(学生会員 高橋 憲幸)



「ウトナイ沼チョウの観察会」

8月1日(木)にウトナイ沼(湖)で「チョウの観察会」が行われました。

当日は曇り空で、やや蒸し暑い天候でしたが、10名の会員が現地に集合しました。今年3月に完成したという湖畔の自然観察路を歩きながら、草花に集まってくるチョウを中心に、さまざまな昆虫や鳥を観察しました。

この日はモンシロチョウ・ミドリヒョウモンチョウ・フタスジチョウ・イチモンジチョウ・ジャノメチョウ・ヒメジャノメチョウ・ウラジャノメチョウ・セセリチョウの仲間の8種類を観察することができた。

チョウの他に、イトトンボ・ルリイトトンボやシオヤアブ、イナゴ、クモの中では毒性が強いといわれるカバチグモやカタツムリなど。

また、コブハクチョウの家族をはじめ、アオサギ・トビ・シジュウカラ・ウグイス・ハクセキレイなど14種の鳥類やサワギキョウ・エゾミソハギ・クサレダマ・ネジバナ・ホザキシモツ

ケ(草花の女王)といった草花も観察することができました。

片道約1.3kmの観察路を往復した後に、7月28日に開館した「ウトナイ湖野生鳥獣保護センター」を見学しました。センターでは、ウトナイ湖の多種多様な動植物を視聴覚展示やパネル展示で紹介されています。また、中央の床面にはウトナイ湖の航空写真があり、あたかも鳥になって上空からウトナイ湖を眺めたような気分になれます。今まで、自然観察会にほとんど参加したことが無かったので、とても「新鮮」に感じました。(学生会員 高橋 憲幸)



展示室から

原野のあけぼの

ここに紹介する資料は、昭和56（1981）年に静川14遺跡の発掘調査で発見された、旧石器時代の細石刃石器群にみられる「彫器」と呼ばれる石器です。

大きさは長さ4.1cm、幅2.3cm、厚さ0.8cmで、周縁に細かい加工を施し、左肩には斜刃型と呼ばれる彫刀面を作り出しています。材質は頁岩で、木や骨に溝を入れたり、削るといった機能が考えられています。

市内で旧石器時代の遺物は、美沢1遺跡に次いで2例目で、その後、美沢10遺跡・静川5遺跡で発見されていますが、遺跡数・遺物数とも少ないといえます。苫小牧の北に位置する千歳市では、祝梅下層三角山地点や丸子山遺跡、柏

～彫器～

台1遺跡で北海道内でも古いとされる2万年ほど前の石器が発見されています。

今から約2万年前は最終氷期の中でも最も寒い時期で、海水面が現在よりも100mほど低下し、北海道と大陸は陸橋により、陸続きになっていたと考えられています。

その陸橋を獲物を追って渡った人たちやその子孫が作り、残したものがこれらの石器といえます。これらは当時の生活や文化を知る上で貴重な資料といえるでしょう。



【新着寄贈資料紹介】

（平成14年3月～7月）

資料名	数量	分類	住所	寄贈者
アンモナイト（リイシイディテス・パラジョベルディアカワキタナ）	2	自然	千歳市	千代川謙一
カラーテレビ	1	民俗	苫小牧市	佐々木信一
ビデオテープ	1	歴史	苫小牧市	松井 郁夫
ウエディングドレス・ベール・緞帳	3	民俗	苫小牧市	黒澤みつゑ
スライドフィルム（童話ほか）・8トラックテープ	13	歴史	苫小牧市	岡部 重一
洗濯盆・洗濯板	3	民俗	苫小牧市	柳川 真平
支那事変記念写真帖・色紙・封書・ハガキ	42	歴史	苫小牧市	本間トモ工
アンモナイト（ユーバキディスカス）	1	自然	苫小牧市	井上 勇
復刻版尋常小学修身書・国語読本・文化鍋・下駄ほか	31	歴史	苫小牧市	高松 雅弘
ステレオ・スキー板（ヒッコリーパック）・ストック	3	民俗	苫小牧市	谷口 幸平
シルクスクリーン（遠藤ミマン版画集）	3	芸術	苫小牧市	ギャリ-ちば
レコード（クラシック・流行歌・教材ほか）・書籍・印鑑	312	歴史	苫小牧市	内田 節子
写真（満州・太平洋戦争当時）	2	歴史	苫小牧市	石田 美代
パンフレット（各種スケート大会）	86	歴史	苫小牧市	友成 真七

【月別入館者数】

（平成14年3月～7月）

	個人					団体					合計
	大人	高校生	小人	幼児	小計	大人	高校生	小人	幼児	小計	
3月	541	9	206	167	923	0	0	0	0	0	923
4月	468	11	584	128	1,191	0	0	0	0	0	1,191
5月	1,712	10	873	277	2,872	33	0	0	0	33	2,905
6月	857	1	607	92	1,557	42	0	200	50	292	1,849
7月	715	4	495	85	1,299	89	0	1,470	89	1,648	2,947
合計	4,293	35	2,765	582	6,919	164	0	1,670	139	1,973	9,815

職員動向

（ ）内は前職

- 退職 3月31日付 事務主査 ・田中 稔
- 再任 4月 1日付 主 事 ・宮夫靖夫（埋蔵文化財調査センター主査）
- 転入 4月19日付 事務主査 ・川山博久（市民税課諸税係係長）
- 〃 主任学芸員補 ・赤石慎三（埋蔵文化財調査センター主任調査員）